

市川市議会では、年4回の各定例会で、会派の代表が会派独自の立場から質問をする代表質問を行います。2月定例会の代表質問は、市長の施政方針、教育長の教育行政運営方針及び新年度予算を含む市長提出議案等を対象とし、質問時間は会派の均等割り時間60分に所属議員数×15分を加えた時間(3人未満の会派は議員1人につき20分)です。質問は総括質問者が行う他、補足質問者を立てることができます。ここでは、代表質問のうち、会派が指定した項目の主な内容を掲載しました。

代表質問

創生市川第1

加藤 武央 小泉 文人
(総括質問者)
田中幸太郎 岩井 清郎

多世代家族応援パスポート

問 多世代家族応援パスポート事業は、市内で同居・近居する多世代家族からの申請を受けて発行する「多世代ファミリーカード」の提示により、協賛企業から各種サービスの提供を受けることができるというものである。この協定を締結した5金融機関は住宅・教育ローン等の金利優遇を行うとのことで、消費喚起にもつながると考える。今後のサービス拡充や事業の周知について、市の考えを問う。

答 本事業における協賛店

小学校区防災拠点協議会

問 平成28年も大きな地震が日本列島を襲い、関東地方での発生も懸念されている。本市においても、更なる住みやすい住宅都市を目指すと共に、災害に強いま



多世代ファミリーカード

民進・連合・社民

石原よしのり 西牟田 勲
(総括質問者)
かつまた竜大 佐藤 義一
(補足質問者)

教員の多忙化解消

問 教員の多忙化は、学校現場では深刻な問題である。その解消には抜本的な改革が必要と考えるが、実質的かつ効果的な取り組みについて、市の考えを問う。

答 教員の長時間労働の要因として、特に指摘されているのは部活動指導と事務

介護の人材確保

問 外国人の介護人材については、現場の人手不足と各国での高齢化の進行で奪い合いになる可能性も指摘されている。こうした問題意識を踏まえて、市は外国人の介護人材の受け入れについてどのように考えるか。

答 現在、市内の介護施設における外国人の介護人材の採用状況は、特養ホームで計16人、グループホーム等では計13人などとなっている。市としては、外国人の介護人材の雇用に当たっての課題や介護現場で働く際の問題点を調査すると共に、今後雇用に関する事業者の意向を把握し、市の

子育て支援

問 待機児童対策緊急対応プランについて、市は進捗状況と今後の効果をどう考えるか。また、財政負担を伴わない子育て施策であるファミリー・サポート・センター事業の現状と課題等につき、市の見解を問う。

答 市は本プランにより、1006人の受け入れ枠の拡大を見込んでいるが、直近の申請児童数を考慮すると、引き続き施設整備を中心とした待機児童対策は必要である一方、それ以外の子育て施策にも同時に取り組む必要があると考えている。地域で住民同士が支えあい子どもを育てる取り組みであるファミリー・サポート・センター事業は、

自由民主党

中山 幸紀 三浦 一成
(総括質問者)
ほそだ伸一 佐藤ゆきのり
かいづ 勉

ホームドアの設置

問 ここ数年、駅のホームからの転落事故や電車との接触事故が後を絶たない。JR東日本は大宮駅から桜木町駅までの京浜東北・根岸線全37駅にホームドアを設置すると発表した。本市でも、鉄道のホームドアの設置を促進していくべきと考える。市の見解を問う。

答 国土交通省は、一日当たりの利用者数が10万人以上の駅について、優先的にホームドア又は内方線付き点状ブロックの整備を進めてきたが、平成28年12月に



鉄道駅に設置されるホームドア



ファミリー・サポート・センター(本部:大洲)

が、依頼に応じて手助けをする協力会員の人数がそれほど増えないことが課題である。その要因として、容の周知により、協力会員の確保に取り組んでいく。